

やさしい手術



年間1万件以上の手術が行われている兵庫医科大学病院。患者さんのけがからの回復や健康を取り戻すための手術は、最新鋭の医療設備と、多くのスタッフの想いに支えられています。今回は、当院の手術についてご紹介します。



進歩する技術、変わらぬ心

兵庫医科大学病院が目指すのは、より安全で質の高い医療です。内視鏡治療や血管内カテーテル治療、胸腔鏡・腹腔鏡手術や手術支援ロボットなど、医療技術の進歩は患者さんにとってより負担が少ない治療を可能にしています。

一方で、変わらないものもあります。それは、患者さんやご

家族に寄り添う心。医師は、治療方針を検討するカンファレンス(会議)で、患者さんの日常生活やご家族のことまでしっかりと話し合います。また、専門分野を持つ多職種のスタッフが、入院から手術、退院まで、さまざまな場面でサポートします。患者さんを想う心が、手術を支えているのです。

手術の前後で多くのスタッフが患者さんをサポートします



- 医師……診療科担当医・執刀医・助手・麻酔科医
- 手術室看護師……手術の準備、サポート
- 病棟看護師……術前・術後のケア
- 薬剤師……服薬指導、持参薬の情報収集
- 歯科医師……術前の口腔ケア
- 臨床工学技士……術中の医療機器の操作や管理
- 理学療法士……術前・術後のリハビリ
- 管理栄養士……食事指導、栄養管理
- ソーシャルワーカー……医療費や退院後の生活相談など
- 事務員……入院や手術に伴う手続きなど

兵庫医科大学病院の手術の現場

兵庫医科大学病院は、すべての専門科がそろった総合病院です。大学病院として、難易度の高いものや先進医療も含め、日々さまざまな手術が行われています。最新鋭の設備がそろった「手術の現場」では、安全で質の高い医療を実践するため、さまざまな職種スタッフが高い専門性を持って互いに連携する「チーム医療」が行われています。

IVR (画像下治療) 室

IVRとは、X線やCT、超音波、MRIなどの画像ガイドで行う、血管内カテーテル治療や、経皮的ラジオ波焼灼療法など針を用いた治療のこと。兵庫医科大学病院には、役割の異なる4つのIVR室があり、脳血管に特化した検査や手術など高度なIVRを行っています。



臨床工学技士

人工心肺装置や人工呼吸器など、手術室で用いられる医療機器の保守管理を担当します。



外科医

執刀医のほかに、数名の外科医が助手として手術室に入り、進行に応じて執刀医のサポートを行います。

2



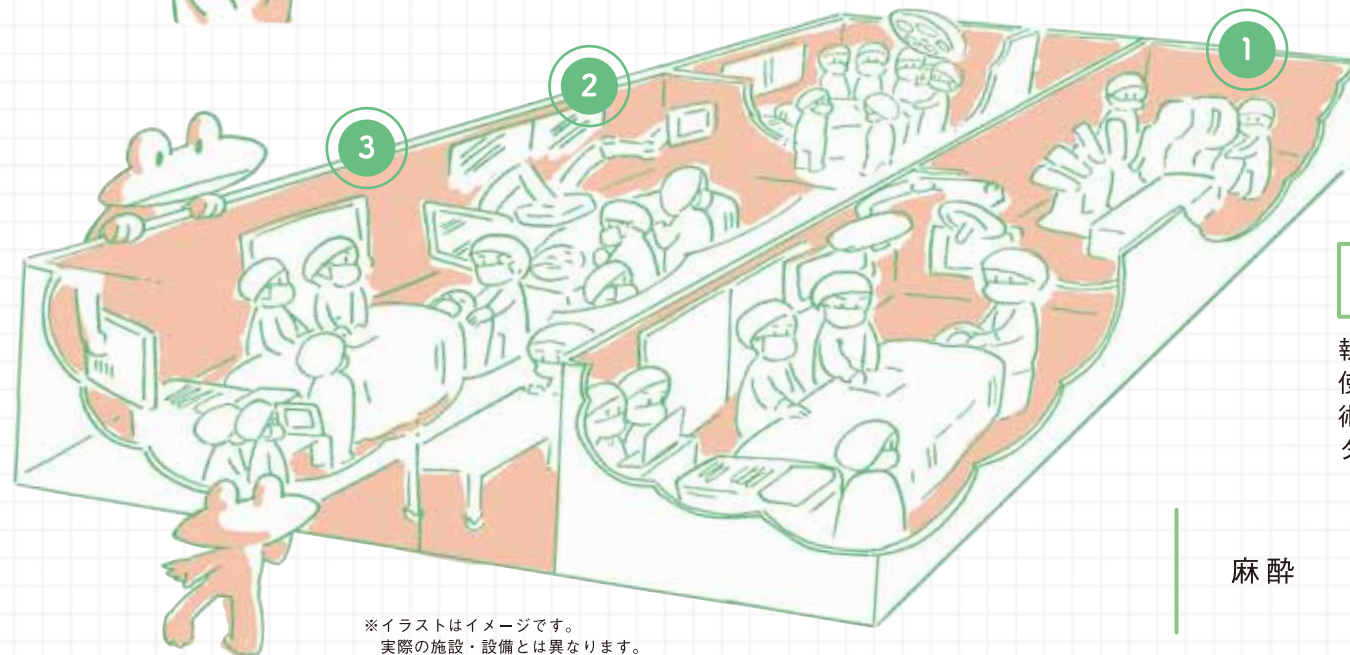
外回り看護師

手術の準備や、出血量・手術時間の管理など、手術が円滑に進むよう、さまざまな業務を行います。



兵庫医科大学病院

2013年4月にオープンした「急性医療総合センター」内には、17もの手術室があります。そのすぐ階下にはICU(集中治療室)があり、術後の移動や連携もスムーズに行えます。また、シミュレーター室も設置され、麻酔や腹腔鏡、「ダ・ヴィンチ」の操作などについて、医師や看護師が実践的なトレーニングを行っています。



※イラストはイメージです。実際の施設・設備とは異なります。



器械出し看護師

執刀医や助手が手術中に使用する器具や材料を、手術の進行に合わせ適切なタイミングで手渡します。



麻酔科医

麻酔の管理はもちろん、血圧や脈拍、呼吸など、手術中の患者さんの全身状態を管理します。

麻酔

麻酔は、手術の痛みや精神的なストレスから患者さんを守り、安全に手術を行うために大切なもの。全身麻酔と局所麻酔があり、手術する部位や方法、時間などに応じて麻酔方法が選択されます。

3

ハイブリッド手術室

カテーテルなどを用いるIVRと外科手術の両方を一度に行うことができる手術室。「一度の麻酔で短時間に両方の治療ができる」「リスクの高いカテーテル治療でもすぐに外科手術に切り替えることができる」など、より患者さんに適切な治療が可能です。



1

手術支援ロボット ダ・ヴィンチ

患者さんの腹部に開けた小さな穴から内視鏡と手術器具を取り付けたロボットアームを挿入し、医師は立体映像を見ながらコントローラーでアームを操作します。通常の腹腔鏡より視野が広く立体的で、また手振れもないので、緻密で正確な手術を行うことができます。

